

敦賀市長選新リーダーが決まる！

今回は新人対決

4月16日告示、同23日投開票の敦賀市長選は、現職の淵上隆信市長がすでに不出馬を表明。新人2人が名乗りを挙げ、一騎打ちとなった。

昨年11月、同市御名の元市議、米澤光治氏55歳が立候補を正式に表明した。米澤氏は「新幹線開業を1年後に控え敦賀を取り巻く環境は変わってくる。市民の皆さんと相談し、新しいステージと一緒に頑張っていききたい」と意欲を示した。

4年前、市議として淵上市長への不信任を誰よりも感じ

ていた米澤氏は、議員の職を投げ打ち市長選に名乗りを挙げ、1万5128票を獲得。現職とわずか700票差で勝利を逃した。

米澤氏は平成27年の市議選に新人ながらトップ当選するや、すべての定例会で一般質問に立ち、議会運営委員長を務めるなど議員らの信頼は厚く、現職の対抗馬として白羽の矢が立ったのも頷ける。政治力や行動力を十分に兼ね備えながら決して出しゃばらず、秀でた見識もひけらかさない。物静かな中に敦賀市の未来にかける熱意が漲っている。多くの支援者たちが「敦賀市を担う逸材」と確信し、今回は

前回以上の得票数で大勝利間違いないと盤石な体制で決戦に挑む。現職は「成果に手ごたえがあった」と自画自賛し、「次に託した」と捨て台詞を吐き戦いから身を引いた。

一方、同市杳見から市議の前川和治氏45歳が今年に入って出馬表明した。前川氏は保育園から中学校までの給食費や親子の遊び場利用料の無料化など「日本一の子育て支援『敦賀モデル』をつくり全国発信したい」と決意を述べた。前川氏は29歳の時、市議選にトップ当選。今回、市議4期16年の経験と実績をアピールし市長選に初挑戦する。市長の退職金ゼロにしますなど

大差で決着か！

街頭に立ち有権者に訴えるが、どれだけ票に結び付くか。

新幹線開業を控え、米澤氏は滞在・宿泊型にするなど観光をビジネスとして活性化させないといけないと指摘。さらに、観光や企業誘致だけでなく、10〜30年後を考えたとき、京都や大阪のベッドタウンになる可能性も見据えたまちづくりを始める時期でもありとした。

前川氏は毎月イベントが開催されるよう市民活動を支援する。市民全員が敦賀をPRする観光大使の仕組みをつく